

インタビューー 新人先生に聞く③

こどもの心に近づけた、感動を大切にしたい

|| 特別支援学校教員C先生（女性）

聞き手 編集 部

○ 教員になって最初に何を感じましたか

時間の流れがとても速く感じました。子どもが登校してくると、いろいろなところに気を配りながら、授業をしたり、給食を食べさせたりして、あつという間に下校時間になってしまいます。子どもが下校しても、ホッと息つく暇もなく会議が入っていて、授業準備もままならず退勤時間になってしまふことがほとんどです。教育実習の時に、先生方から「教員は忙しいよ」と聞いていましたが、実際に働いてみると、想像以上に一日がめまぐるしく過ぎていくと感じました。

○ 特別支援学校に赴任して何を感じましたか

子どもがみんな違うのは当たり前で、違うのなら、同じことをするにも違った支援が必要なんだということを感じました。

私のクラスには4人の子どもがおり、私を含めて3人で担任をしています。子どもたちは、喃語なんごや発声などの音声言語と表情、しぐさで気持ちを伝えます。どの子どももそれぞれのやり方で伝えてくるので、最初の頃は子どもたちが何を言っているのか、何をしたいのか、何かが分からず、とても困りました。分かってあ

げられないでいると、他の先生方が、「○○なの？」とフオーしてくれ、ようやく子どもの伝えようとしていることが分かるという状態でした。

それから、いろいろな先生方の子どもとの接し方を見て真似をし、それぞれの子どもに別々の方法で接してみました。ある子には、大げさなくらいのスキンシップで、またある子には、優しく高い声での歌い掛けで一緒に遊び、「楽しかった」という思いを共有できるようにしました。そして、「○○楽しかったね」「○○したんだよね」などと、その時のことを語り掛けました。子どもはその時の状況を思い出し、にっこりと笑ってくれるようになりました。このやり取りの中で、少しずつ子どもの好きなことや性格が見えてきて、子どもが伝えようとするこの見当がある程度つくようになってきました。

そして、子どもがうまく自分の意思を伝えられずに怒っていた時に、なんとか気持ちを決み取ってあげると、子どもは本当に嬉しそうに、満足そうな顔をしてくれました。この時、ようやく子どもの心に近づけた気がしました。

※ 幼児の、または言葉にならない段階の声。

○ 学校での日常を話してください

朝は教室の整備から始まります。教室には子どもたちがゆったりと体を伸ばせるスペースとしてじゅうたんが敷いてあるので、カバーをかけたなり、冬場は加湿器をつけて湿度調整をしたりしています。肢体不自由の子どもたちにとっては、同じ姿勢でいることの辛さや体温調節の難しさなど配慮するべき部分がたくさんあるので、とても大事な朝の仕事です。子どもたちが登校してからは、常に子どもたちと一緒にいます。子どもが帰ってからは会議や研修、書類を作成していることがほとんどです。文章を書く仕事がたくさんあり、仕事が遅いので、教材研究の時間が減ったり、帰る時間が遅くなったりしてしまうのが現状です。

○ 教育活動で困った時はどうしていますか

相談したい内容によって、同じクラスの先生や初任者指導をしてくれた先生、教務室の席が近い先生など、いろいろな先生に相談をします。日ごろから子どもの様子や良かったこと、失敗したこと、保護者への対応の仕方など、なんでも話を聞いてもらっています。な

ので、困った時もある程度自分で考えてから、困っていることや考えたことを話しています。話をしたこと、解決してもしなくても、先生方に気持ちを汲み取ってもらえたことで、ずいぶん楽になったり、新たな見方ができるようになったりしました。

○ 職員同士の交流はうまくいっていますか

とても良くしてもらっています。職員数が百人ほどの学校なので、最初は名前と顔を覚えるのも難しかったです。ですが、たくさんの先生方が声を掛けてくださり、少しずつ慣れてきました。二年目になり、最近では会話を楽しむことができるようになってきました。また、月に一度、同じ学校の若手の先生方と一緒にバスケットをして楽しんでいます。学校とは別の環境で、体を動かしたり、話をしたりするので、とても良いいフレッシュの時間になっています。

○ いま自分にとって

何が重要だと思っていますか

特別支援に対する専門性だと思います。学級の子どもを笑顔にさせたり、気分をのせたりする方法などに

ついては、この一年と数ヶ月を掛けてたくさん学んできました。ですが、子どもたちがどのように発達していくのか、障害の特性はどのようなものか、体の動かし方はどのようにすると楽になるのかなど、無知の部分がたくさんあります。そのことで、子どもの成長が遠回りしてしまっていると感ずることが多々あるので、先生方に教わったり、研修に参加したり、文献を読んだりして学んでいきたいと思っています。

(聞き手・大滝浩道)

訂正 「にいがたの教育情報」一〇二号に誤植がありました。訂正してお詫びいたします。

山崎 | 徹 ↓ 山崎 | 徹